

サブクロバの導入試験

第1報 サブクロバの生育特性について

広津淳二・梅津三郎・*安仲壮市

(大分県畜産試験場・*畜産課)

HIROTSU, J., UMETSU, R. and *YASUNAKA, S.

Increasing Herbage Productivity in Native Grassland by Introducing Subclover

(1) Growth Habits of Subclover

現在、イネ科とマメ科との混播は収量増大・品質向上・経済的利用年限の延長を目的に行なわれている。ところが、永年生クロバを混播した場合播種量が適当でなかったり、草地の維持管理が好ましくないとクロバ優占草地になりやすい。その結果、栄養的にアンバランスを生じさせたり、放牧家畜に鼓脹症などの疾病を起させたりする。そこで普通に栽培利用されている永年生クロバとは生育パターンを異にしたサブ・クロバの導入を試みることにした。なお、今回は導入に先立ち当地域でのサブ・クロバの生育特性を調査したので結果の概略を報告する。

試験方法

供試草地：S 46年10月5日にサブ・クロバ5品種(Mt. Barker, Bacchus Marsh, Yarloop, Seaton Park, Clare……以下 Mt. B, B. M, YL, S. P, CLと略す)を10a当たり5.0kg播種した芝型野草地。処理：元肥区と無肥料区を設け元肥区には10a当たり成分でN 6, P₂O₅ 21, K₂O 6kgを全面散布。調査項目：開花結実期、株数変化、生草収量。

結果および考察

1. 生育パターン

サブ・クロバが普通のクロバと異なる点は①開花

後受精すると花梗が伸びて地下浅くもぐりこみ大量の種子を形成する。②高温で乾燥する夏の期間は硬実種子で過す。③気温が低下し雨の多い9月になると急に発芽し、

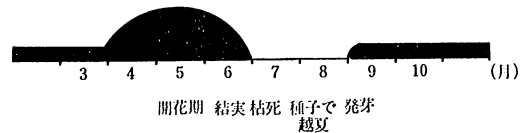


図1 生育パターン

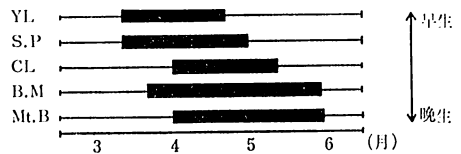


図2 開花期と早晩生

表1 春および秋の株数 (本/m²)

| 品 種 | 春 | 秋 |
|-------|-----|-------|
| Mt. B | 405 | 1,013 |
| B. M | 455 | 238 |
| S. P | 380 | 0 |
| Y L | 133 | 0 |
| C L | 275 | 95 |

表2 サブクロバおよび野草の生草収量 (kg/10a)

| 品 種 | | Mt. B | B. M | S. P | Y L | C L | 対 照 (野草のみ) |
|-------|-------------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| 7月20日 | 野 草 | 660 | 539 | 600 | 701 | 450 | 570 |
| | ク ロ ー バ | 470 | 761 | 260 | 29 | 260 | — |
| 9月28日 | 野 草 | 2,146 | 1,583 | 1,565 | 950 | 742 | 600 |
| | ク ロ ー バ | 1,554 | 692 | 0 | 0 | 83 | — |
| 合 計 | 野 草 | 2,806 | 2,122 | 2,165 | 1,651 | 1,192 | 1,170 |
| | (比 率) | (240) | (181) | (185) | (141) | (102) | (100) |
| | ク ロ ー バ | 2,024 | 1,453 | 260 | 29 | 343 | — |
| | 野草・クロバ合計 (比 率) | 4,830 (413) | 3,575 (306) | 2,425 (207) | 1,680 (144) | 1,535 (131) | 1,170 (100) |

10月には植生を回復する点にあり、植物学的には1年生でありながら実用上は多年生と同様に植生を持続できる特徴を持っている。

2. 開花期と早晚生

開花期間は40～70日で、開花期間および開花始めから見た早晚生は大体 YL>S. P>CL>B. M>Mt. B の順であった。

3. 春および秋の株数

Mt. B を除き春の生存株数の多かった品種も、硬実種子の梅雨期における発芽とその後の高温・乾燥による

枯死およびダンゴムシの害により秋の生存株数は著しく減少した。B. M は減少率も低く植生も十分保たれていたことから、さらに検討する必要がある。無肥料区は定着、その後の生育ともに悪く全滅した。

4. 生草収量

クローバ、野草収量ともに Mt. B 区および B. M 区がすぐれ、対照区に比べ年間野草収量で2.4～1.8倍、クローバと野草との年間合計収量で4～3倍あった。Mt. B 区の10 a 当たり収量 4,800kgは実用上から考えても当地域での牧草収量に比較的近い値であった。